

歯科医師国家試験の

これまでの対応状況及び論点（案）等の状況

歯科国試改善
H27.10.20

歯科医師国家試験における問題の形式

< Aタイプ >

5つの選択肢の中から 1つの正解 を選ぶ形式

< X2タイプ >

5つの選択肢の中から 2つの正解 を選ぶ形式

< XXタイプ >

5つの選択肢の中から 複数の正解 を選ぶ形式

< LAタイプ >

6～10の選択肢から 1つの正解肢 を選ぶ形式

< 計算問題 >

医薬品の処方（用法・用量等）や検査値等、数値を 計算により回答 させる形式

問題の形式別の出題数

第107回	必修問題	一般問題	臨床実地問題	全 体
Aタイプ	70問	86問	52問	208問
X2タイプ	0問	95問	43問	138問
XXタイプ	0問	8問	5問	13問
LAタイプ	0問	1問	4問	5問
計算問題	0問	0問	1問	1問

第108回	必修問題	一般問題	臨床実地問題	全 体
Aタイプ	70問	86問	61問	217問
X2タイプ	0問	91問	36問	127問
XXタイプ	0問	5問	3問	8問
LAタイプ	0問	8問	4問	12問
計算問題	0問	0問	1問	1問

Aタイプの問題の例

108A047

48歳の男性。上顎中切歯に歯肉退縮を認め、歯周ポケットの深さを測定した。臨床的アタッチメントレベルを知るために、次に行うのはどれか。1つ選べ。

- a エックス線撮影
- b 付着歯肉の幅の測定
- c 辺縁歯肉の位置の測定
- d 接合上皮の長さの測定
- e ボーンサウンディング

108A092

平成22年度における我が国の国民医療費で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 財源の内訳では公費が約70%である。
- b 国民所得に対する比率は約10%である。
- c 後期高齢者医療給付分が国民医療費全体の約30%である。
- d 国民医療費に占める歯科診療医療費の割合は約12%である。
- e 歯科診療医療費のうち65歳以上が歯科全体の約50%である。

108A106

陶材焼付用金合金が金属焼付陶材より大きい値を示すのはどれか。すべて選べ。

- a 硬 さ
- b 密 度
- c 熱伝導率
- d 引張強さ
- e 熱膨張係数

LAタイプの問題の例

108B051

上顎右側第二小臼歯に光重合型レジンを用いて製作したクラウンを装着することとした。支台歯の写真(A)とその装着過程の写真(B)を別に示す。

正しい装着の手順はどれか。1つ選べ。

- a ア→イ→ウ
- b ア→ウ→イ
- c イ→ア→ウ
- d イ→ウ→ア
- e ウ→ア→イ
- f ウ→イ→ア

A



B



ア

イ

ウ

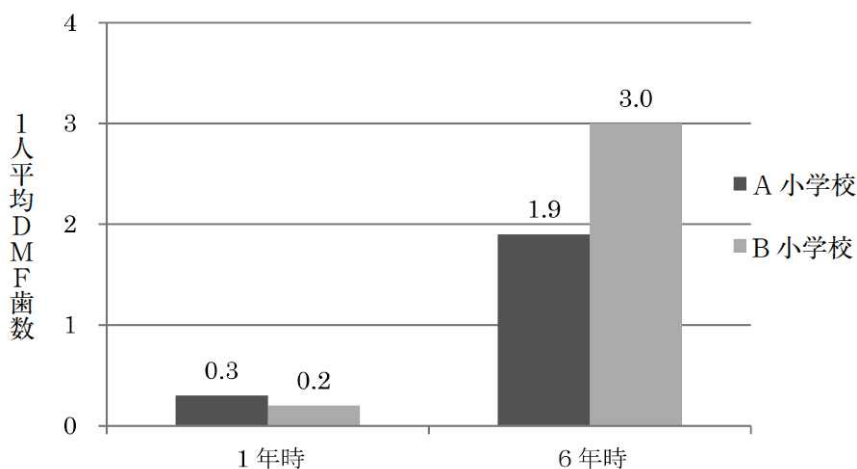
歯科国試改善
H27.10.20

6

計算問題の例

108D053

フッ化物洗口法を実施しているA小学校と実施していないB小学校における1年時と6年時の1人平均DMF歯数を図に示す。



フッ化物洗口法による齲蝕抑制率を求めよ。
ただし、小数点以下第1位を四捨五入すること。

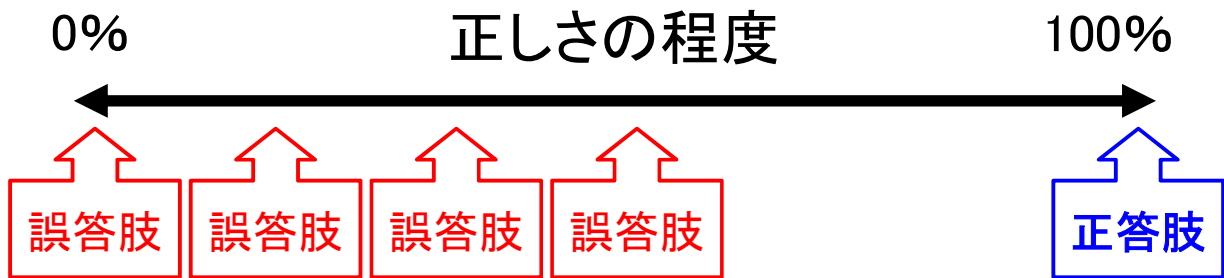
歯科国試改善
H27.10.20

7

選択肢の正しさに段階のある設問について

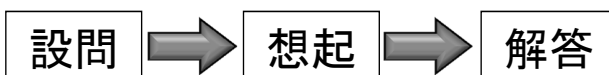
設問文の条件下で選択肢の「正しさ」に段階的な違いがあり、その中で最も「正しい度合い」が高い選択肢を選ばせる問題。

臨床現場において、複数の治療方法の中から最も適切な治療方法を選ぶことがある。試験問題でも設問文の条件下で最も適切な判断などを問うことによって、より臨床に即した判断を問うことができる。

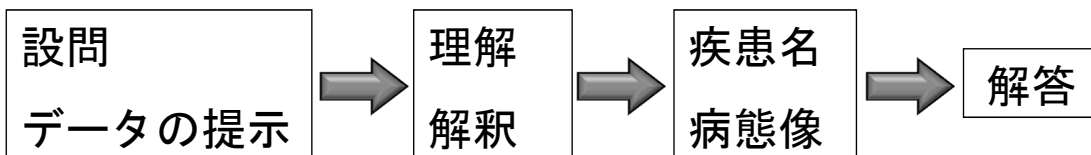


タクソミーについて

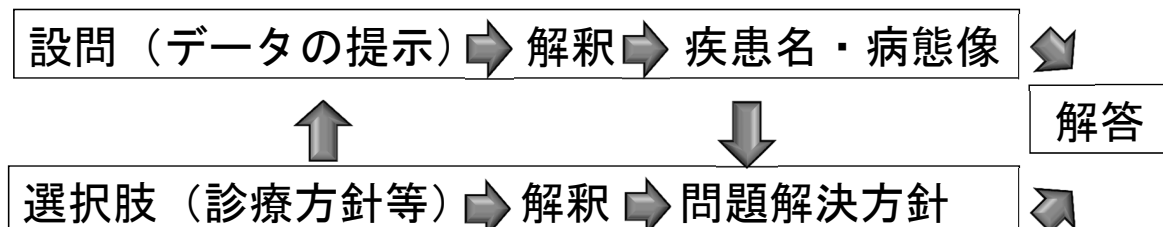
○ I 型（想起）



○ II 型（解釈）



○ III 型（問題解決）



タクソミー別の出題数

	第107回	第108回
I 型	162	165
II 型	139	132
III 型	64	68

タクソミー I 型の問題の例

108A033

臓器移植における組織適合検査はどれか。1つ選べ。

- a 羊水検査
- b HLA検査
- c HBs抗原検査
- d アレルゲン検査
- e 好中球機能検査

タクソミーⅡ型の問題の例

108B018

50歳の女性。上顎左側大臼歯部の歯肉腫脹を主訴として来院した。慢性歯周炎と診断し、歯周基本治療を行った。上顎左側第二大臼歯は予後不良と判断し早期に抜去した。再評価の結果、に歯周外科手術を行うこととした。初診時のエックス線写真(別ページA)と術中の口腔内写真(別ページB)を別に示す。再評価時の歯周組織検査結果の一部を表に示す。

頬側*	3	3	4	4	4	6
歯種	5			6		
口蓋側*	3	3	3	4	4	8
動揺度	0			1		

*：歯周ポケットの深さ(mm)

A



B



左上6 遠心の処置後、最も期待できるのはどれか。1つ選べ。

- a 根面被覆
- b 結合組織性付着
- c 角化歯肉幅の増大
- d セメント質の新生
- e 歯周ポケットの減少

歯科国試改善
H27.10.20

12

タクソミーⅢ型の問題の例

108B043

5歳の女児。下顎右側第一乳臼歯の自発痛を主訴として来院した。3週前から軽度の冷水痛を訴えたが放置していたという。垂直および水平打診に反応を示す。インピーダンス測定の結果は12.5 kΩであった。初診時の口腔内写真(A)とエックス線写真(B)を別に示す。

適切な治療はどれか。1つ選べ。

- a コンポジットレジン修復
- b 直接覆髄法
- c 抜髄法
- d 感染根管治療
- e 抜歯

A



B



歯科国試改善
H27.10.20

13

平成26年版歯科医師国家試験出題基準(概要)

歯科医師国家試験は、歯科医師法第9条に基づいて、「临床上必要な歯科医学及び口く衛生に関して、歯科医師として具有すべき知識及び技能について」行われる。第9条にいう「知識と技能」とは、臨床研修歯科医師として歯科医療に第一歩を踏み出し、指導歯科医の下でその任務を果たすのに必要な基本的知識及び技能であるとする。

その内容を具体的な項目によって示したのが、歯科医師国家試験出題基準(ガイドライン)である。歯科医師国家試験の妥当な内容、範囲及びレベルを確保するため、歯科医師試験委員は、この基準を踏まえて出題する。ただし、出題内容に関する最終的な判断は、試験委員会が行うものとする。

ブループリント(歯科医師国家試験設計表)

「必修の基本的事項」(約20%)

1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム	約2%
2 社会と歯科医療	約2%
3 予防と健康管理・増進	約5%
4 歯科医療の質と安全の確保	約7%
5 診療記録と診療情報	約2%
6 人体の正常構造・機能	約14%
7 人体の発生・成長・発達・加齢	約7%
8 医療面接	約4%
9 主要な症候	約10%
10 診察の基本	約4%
11 検査の基本	約10%
12 臨床判断の基本	約2%
13 初期救急	約1%
14 主要な疾患と障害の病因・病態	約12%
15 治療の基礎・基本手技	約12%
16 チーム歯科医療	約2%
17 一般教養的事項	約4%

「歯科医学総論」(約30%)

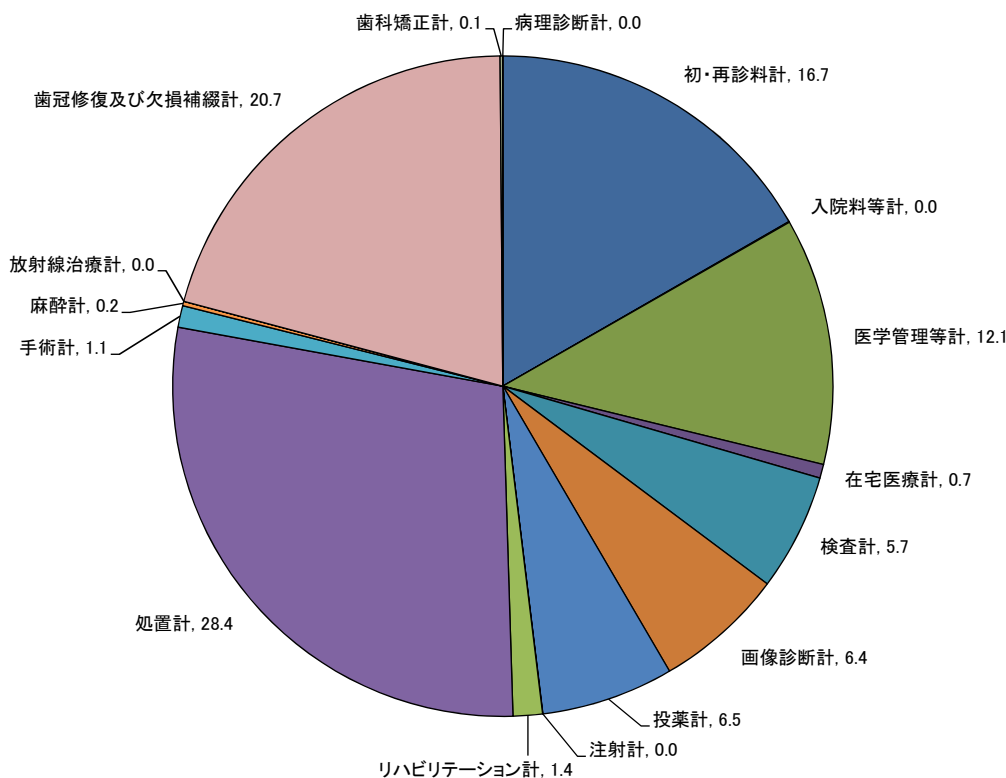
総論 I 保健医療論	約12%
総論 II 健康管理・増進と予防	約9%
総論 III 人体の正常構造と機能	約5%
総論 IV 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能	約9%
総論 V 発生、成長、発達、加齢	約3%
総論 VI 病因、病態	約9%
総論 VII 主要症候	約4%
総論 VIII 診察	約7%
総論 IX 検査	約16%
総論 X 治療	約13%
総論 XI 歯科材料と歯科医療機器	約13%

「歯科医学各論」(約50%)

各論 I 歯科疾患の予防・管理	約6%
各論 II 成長発育に関連した疾患・病態	約19%
各論 III 歯・歯髄・歯周組織の疾患	約23%
各論 IV 顎・口腔領域の疾患	約23%
各論 V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害	約23%
各論 VI 高齢者の歯科診療	約6%

歯科診療の実施状況

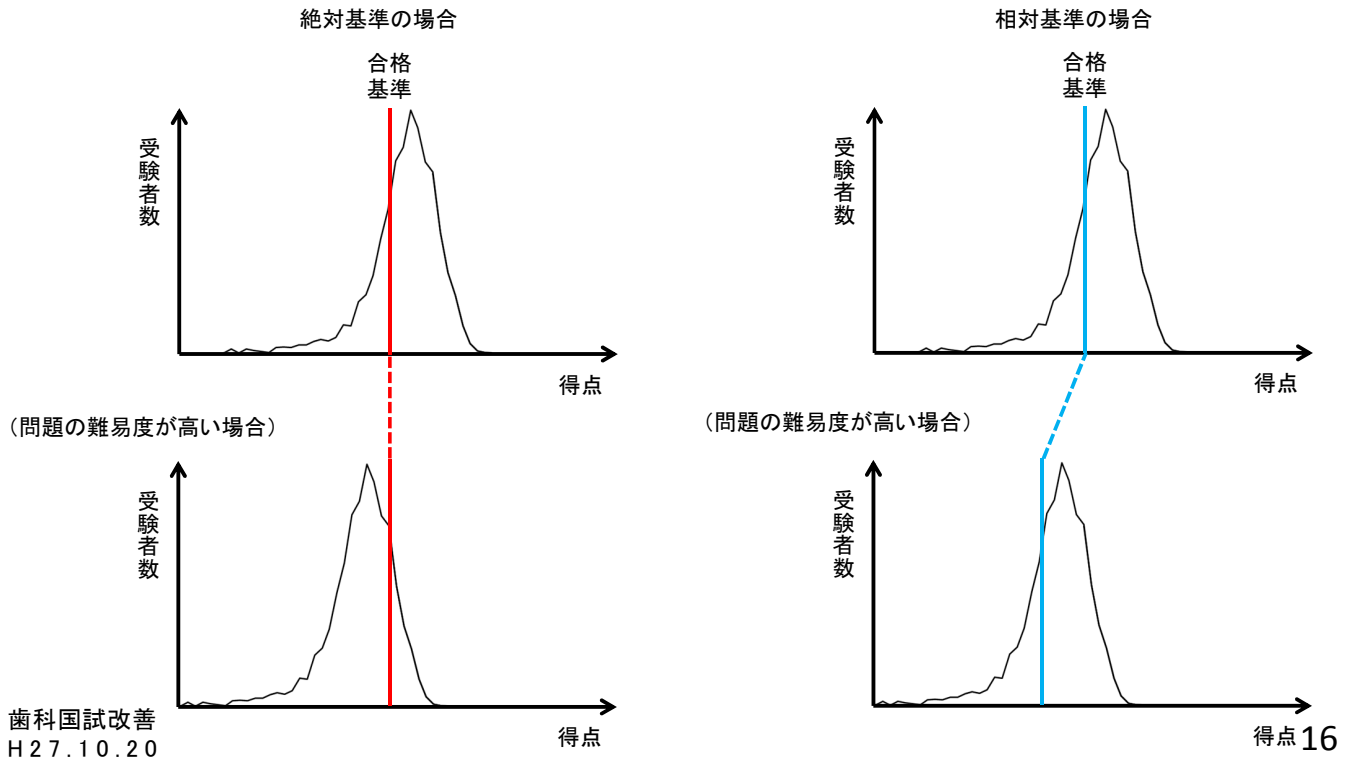
平成26年社会医療診療行為別調査の歯科診療の算定回数を基に作成。



絶対基準と相対基準の考え方

絶対基準の場合、問題の難易度が高い等で受験者の得点分布が低い方に移動した場合、合格基準は変わらないため、問題の難易度に左右されることになる。

相対基準の場合は、問題の難易度が高い等で受験者の得点分布が低い方に移動した場合、合格基準自体も変わり、問題の難易度に左右されず、一定のレベルの受験者が基準を満たすことができるようになる。

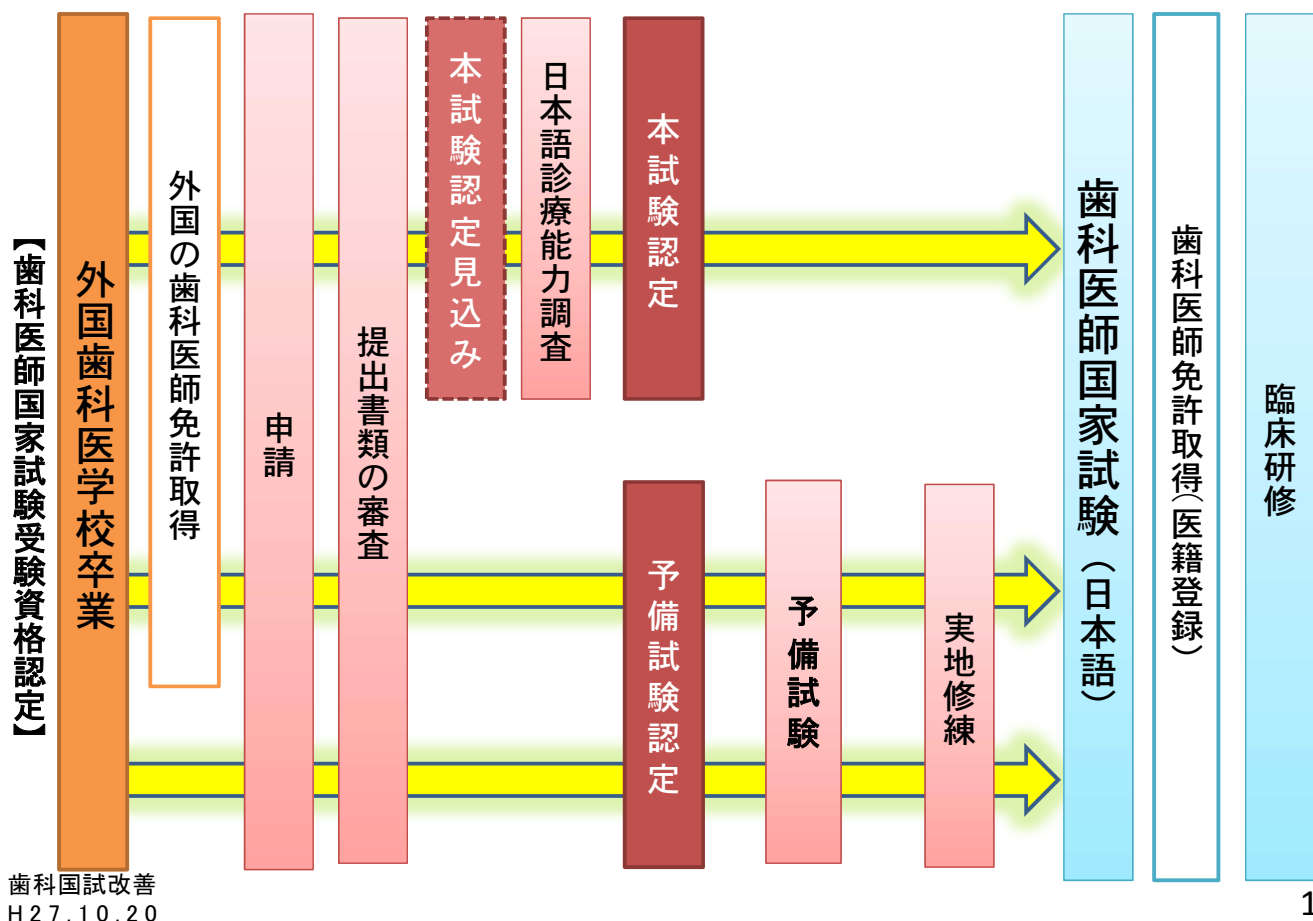


合格基準の禁忌肢選択数及び必要最低点の状況

患者に対して重大な障害を与える危険性のある誤った治療(診断)等の誤った知識を持った受験者を識別する目的で運用されている「禁忌肢選択数」やバランスの取れた知識・技能を持った歯科医師が求められていること等から導入された「必要最低点」の合格基準を満たさない大多数の受験者は、他の合格基準も満たしていない。

	禁忌肢選択数が合格基準を満たさなかった受験者数	必要最低点が合格基準を満たさなかった受験者数
第107回	1名 (うち、禁忌肢選択数以外の合格基準も満たさない受験者数: 1名)	143名 (うち、必要最低点以外の合格基準も満たさない受験者数: 122名)
第108回	1名 (うち、禁忌肢選択数以外の合格基準も満たさない受験者数: 1名)	111名 (うち、必要最低点以外の合格基準も満たさない受験者数: 110名)

外国歯科医師による日本の歯科医師免許取得の流れ



歯科医師国家試験受験資格認定について

		歯科医師国家試験受験資格認定	歯科医師国家試験予備試験受験資格認定
外国歯科医学校の修業年数	歯科医学校の入学資格	高等学校卒業以上（修業年数12年以上）	
	歯科医学校の教育年限及び履修時間（大学院の修士課程、博士課程等は算入しない）	6年以上（進学課程；2年以上、専門課程；4年以上）の一貫した専門教育（4500時間以上）を受けていること。 ただし、5年であっても、5500時間以上の一貫した専門教育を受けている場合には、基準を満たすものとする。	5年以上（専門課程；4年以上）であり、専門科目の履修時間が3500時間以上で、かつ一貫した専門教育を受けていること。
	歯科医学校卒業までの修業年限	18年以上	17年以上
歯科医学校卒業からの年数		10年以内（但し、歯科医学教育又は歯科医業に従事している期間は除く）	
専門科目の成績		良好であること	
教育環境		大学付属病院の状況、教員数等が日本の大学とほぼ等しいと認められること	大学付属病院の状況、教員数等が日本の大学より劣っているものではないこと
歯科医学校卒業後、当該国の歯科医師免許取得の有無		取得していること	取得していなくてもよい
日本語能力		日本の中学校及び高等学校を卒業していない者については、日本語能力試験N1（平成21年12月までの認定区分である日本語能力試験1級を含む。以下同じ。）の認定を受けていること	

日本語診療能力調査について

歯科医師国家試験の合格者は直ちに日本において歯科医業を行うことができることから、外国で歯科医師免許を得た者が、歯科医師国家試験受験資格の認定を受けようとする場合、現実の診療の場で、患者あるいは他の診療スタッフとの間で、正確で適切な日本語による意志疎通が可能であるかどうか判定する必要がある。

歯科医師国家試験は臨床上必要な歯科医学及び口腔衛生について歯科医師として必要な知識及び技能を問うこととしているので、本調査では、実際に則した臨床場面を設定し、患者の訴えや現症などの歯科医療情報の収集、カルテの作成、症例に関する討論等の診療行為を日本語で行う上で必要な聴く能力、話す能力、書く能力、読み取る能力、診察する能力について、日本の歯科医学校において歯科医学の課程を修めた者と同等の能力を有するか否かを判定することを目的とする。

歯科医師国家試験受験資格認定の本試験認定数について

年度			本試験認定数（名）
平成	17	年度	2
	18		5
	19		2
	20		0
	21		1
	22		1
	23		1
	24		6
	25		1
	26		1

歯科医師国家試験予備試験について

○ 試験科目

(1) 学説試験第一部試験

解剖学(組織学を含む。)、生理学、生化学(免疫学を含む。)、薬理学、病理学、微生物学および衛生学

(2) 学説試験第二部試験

口腔外科学、保存学、補綴学、矯正学および小児歯科学

(3) 実地試験

口腔外科学、保存学、補綴学および矯正学

○ 試験内容

(1) 学説試験

各科目につき、多肢選択式問題20題と用語の組合せや穴埋め等の問題となっている。

(2) 実地試験

人工歯を用いた根管孔明示や総義歯の人工歯排列、エックス線写真・口腔内写真や歯列模型等を用いた診断や治療方針等を問う問題となっている。

歯科医師国家試験予備試験の実施状況

年度	学説試験第一部試験			学説試験第二部試験			実地試験		
	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)
平成 17 年度	3	0	0.0	0	0	-	0	0	-
18	5	2	40.0	2	2	100.0	2	1	50.0
19	3	1	33.3	1	0	0.0	1	1	100.0
20	4	1	25.0	2	2	100.0	2	1	50.0
21	3	0	0.0	0	0	-	1	0	0.0
22	4	2	50.0	2	1	50.0	2	1	50.0
23	4	0	0.0	0	0	0.0	1	0	0.0
24	3	1	33.3	1	1	100.0	2	1	50.0
25	3	1	33.3	1	1	100.0	2	2	100.0
26	3	1	33.3	1	1	100.0	1	1	100.0
27	3	2	66.7	2	未発表		12月実施予定		

第108回歯科医師国家試験 卒業年次別受験者数・合格者数・合格率

卒業年次		受験可能回数	受験者数 (人)	構成比 (%)	合格者数 (人)	合格率 (%)	
新卒	平成26年4月～ 平成27年3月	1回	1,995	63.6	1,457	73.0	
	平成25年4月～ 平成26年3月	2回	598	19.1	377	63.0	
既卒	平成24年4月～ 平成25年3月	3回	217	6.9	107	49.3	
	平成23年4月～ 平成24年3月	4回	71	2.3	29	40.8	
	平成22年4月～ 平成23年3月	5回	54	1.7	12	22.2	
	平成21年4月～ 平成22年3月	6回	31	1.0	5	16.1	
	平成20年4月～ 平成21年3月	7回	54	1.7	10	18.5	
	平成19年4月～ 平成20年3月	8回	32	1.0	1	3.1	
	平成18年4月～ 平成19年3月	9回	23	0.7	2	8.7	
	平成18年3月以前	10回以上	63	2.0	3	4.8	
	計			1,143	36.4	546	47.8
	総計			3,138	100.0	2,003	63.8

歯科国試改善
H27.10.20

24

累積合格率(荒い推計)

回数	受験可能回数	受験者数	合格者数	不合格者数
第106回	1回	2,373	1,907	466
第107回	2回	503	285	218
第108回	3回	217	107	110

歯科医師国家試験の合格発表についてのプレスリリースから

修正後				
回数	受験可能回数	受験者数	合格者数	不合格者数
第106回	1回	2,410	1,907	503
第107回	2回	503	285	218
第108回	3回	217	107	110

※第107回試験で受験可能回数が2回の受験者数が、第106回試験で受験可能回数が1回の不合格者数を上回っているため、その差の37名を加味した人数で修正を行っている。

第106回試験の受験者で、以降3回の試験の累積合格率
 $(1,907+285+107) \div 2,410 = 95.4\%$

歯科国試改善
H27.10.20

25

多数回受験者の臨床技能の確保について(案イメージ)

国家試験合格後の臨床研修をスムーズに実施するために

- ① 卒後年数の経過していない受験者(受験可能回数が n 回未満の受験者)
- ② 卒後年数が経過していても臨床に関する試験に合格した受験者(受験可能回数が n 回以上で臨床に関する試験の合格者)には国家試験の合否判定の際、一定の点数を加し、より臨床技能の確保をするもの。

